

# アジアの都になるんだ!

京都大学教授 **高坂 正堯**

京都生まれ。京都大学教授。専攻は国際政治学。鋭い切り口の政治評論には定評があり、テレビに執筆活動にと幅広いフィールドワークで活躍中。著書には、「日本存亡の時」、「歴史の転換点で考える」などがある。

ニュースキャスター **蓮 舫**

1967年東京生まれ。青山学院法学部卒業。88年クラリオンガールとしてデビュー、ドラマ・CMで幅広く活躍。現在は、「ステーションEYE」でニュースキャスターとして、いろいろなニュースを連日レポートしている。



## 新関西論～関西国際空港の開港によせて

対談 ● 高坂正堯氏VS蓮舫氏

待望の関西国際空港がついに開港しました。  
大阪湾南東部・泉州沖 5 kmに浮かぶ海上空港であり  
わが国初の本格的24時間空港

国際的設計コンペなど数々の話題で国際的な注目を浴びてきました。

また、アジアのハブ空港として、関西はアジアから世界へ  
世界からアジアへの玄関口となり  
一躍、アジアの国際都市としてデビューすることにもなります。

新空港とともに始まる関西の国際化について  
高坂正堯氏と蓮舫さんに展望していただきました。

## アジアの成長とともに 力を発揮する新空港

蓮舫●関西国際空港がいよいよ開港しましたが、とってもきれいな空港ですね。この新空港はいろいろと話題も満載なんですけど、なんといっても関西の経済力はカナダ一国のGNPに匹敵するといわれるほどの経済圏。この大きな経済圏に新空港のオープンが及ぼす影響というのはかなりなものになるのではないのでしょうか。

高坂●そんなにすぐに影響の出るものではないかもしれません。というのは、アジアの航空需要は増えているんですが、ものすごいスピードで増えた時に比べればやや伸び率が減っているんです。しかし、10年、15年の単位で見ればアジアの経済成長にともなって、これはもう力を発揮すると思いますよ。時間の短縮や便数の増加はもとより、特に24時間空港というのが大きいでしょうね。なかなか将来性があると思います。

## 新しい考え方のハブ空港をつくる

蓮舫●一方で国際拠点空港、ハブ空港になるという目標も持っていますよね。

高坂●ああ、あれはちょっと違う(笑)。

蓮舫●ええ? それはなぜですか?

高坂●いやいや、拠点といえば拠点なんです。しかしあれはもともとアメリカの考えなんです。たとえば、ピッツバーグはUSエアの拠点なんだけれども、小さい町からやってきた飛行機をここでジャンボに乗り換える。アジアの場合は台湾でも香港でも韓国でも初めからジャンボで行きますよ。だから、これからのハブ空港というのは単に飛行機で飛んできて飛行機に乗り換えるという既成の考えではなく、もっと別の独自の考えで展開してほしいな。関西にはこの点を期待したいですね。

蓮舫●香港、北京、ソウル、シンガポールで2000年までに国際拠点空港をつくらうという計画が

進んでますが、関西が既存の考え方ではない新しいハブ空港の形をつくっていくとしたら、それはどういう形なんでしょうか。

高坂●日本というのは狭い国ですが、この狭い国の大阪周辺にはものすごい人口の集積があるんですね。後背地が大きい。この後背地の人が自由に快適に使えるシステムが充実すれば、関西の需要はどんどん伸びる。そして、和歌山、奈良、滋賀などの人やモノの流れが空港を中心に円滑にいくようになればその効果は非常に大きいでしょうね。

蓮舫●関西の開港とともにアクセスが便利になりましたよね。特に物流の高速化という点では関西の役割は大きくなっていくでしょうね。現在、貨物の取り扱いが成田で80%、伊丹で11%。しかも成田は世界一の取り扱い量なんですけど、それがずいぶん和らぐでしょうね。24時間空港という効果もありますし。

## “神戸コロッケ”は ふたたび生まれるか

蓮舫●関西はとにかく高い、というのがもっぱらの評判です。何か高くて、マクドナルドが高いのには驚きました。ライターで「関西のマクドナルドは世界一高い」という前代未聞の記事が回ったのをご存じですか?

高坂●あれはね、マックレイトというのがあって、イギリスのエコノミストが時々やるんですよ。マクドナルドが世界でどの位の値がするのかがというのを調べてマックレイトと比較するんですが、これは有名な話です。だからマクドナルドは安くしとかなきゃならんのですよ。ちょっと国際知識がなさすぎるともいえますね。

蓮舫●ロシアでマクドナルドがオープンした時と同じですよ。まあ、とにかく渡橋料、空港使用料とどれをとっても高い。

高坂●その点はきわめて大阪らしくない。大阪とかアジアの商売というのは基本的に薄利多売なんですから。

蓮舫●吉本がお好焼き屋を出す時、あのガラスのきれいなビルに吉本のコテコテは似合わない、おしゃれにするって言ったとか。むしろ私は東京とは違うコテコテという感覚を期待するんですが。

高坂●大阪空港にあるコロッケ屋を知ってますか?

蓮舫●神戸コロッケですよ。あれはおもしろい。あのような関西らしさがどこまで空港に生



# 人・モノ・文化が交流する都市へ —「世界の中の関西」誕生—



●マレーシア



●中国



●シンガポール



●オーストラリア



●韓国



かされるかでしょうね。  
高坂●特にアジアから人が来ますからね。関西に初めて来て、「大阪の物価はなんて高いのだろう」という第一印象を持たれてしまう。街に出れば安くてもいいものがいっぱいあるんですが、しかし、大阪人は基本的にしぶとくてがめつい(笑)ので、儲かるとわかったら儲かるように猛然と動き出す。吉本も2年位したらコテコテのお好み焼きを売るんじゃないですか。

## 東京一極集中は緩和されるか

蓮舫●関西をきっかけに東京一極集中は緩和されるでしょうか。  
高坂●そう期待しますね。東京圏というのはもはや物量的に満杯なんです。通勤に何時間もかかるという現状ですから、地方都市に出て行くのは必然なんです。蓮舫●あとは東京を離れると「都落ち」というような意識の問題になるわけですね。  
高坂●官庁以外に中央政権を支えているものには二つあるんです。ひとつがマスコミであり、もうひとつが巨大な消費市場なんです。したがって、東京というのは文化の発信、消費スタイルの発信という両方を支配している。その時に

関西に備打ちがあるのは、たいていのものが画一化されている中において、言葉を変えないということ。言葉というのは文化的アイデンティティですから、それがあつたというのは関西の強みなんです。しかも関西の文化の独自性ということでは、関西にはエライ人がいないようですね。誰かに命令されるのではない、みんな個人商店の集まりなんです。そこが関西のたくましさであり関西の文化なんです。  
蓮舫●京都人は知識人、大阪は庶民的で神戸はハイセンス。そのごった煮が関西の文化であるという見方があるのですが、とてもおもしろいと思います。東京ってどこで切ってもみんな同じというところがありますでしょ。  
高坂●多様性というのが関西の進歩の原動力でもあるといえる。意識の問題とさっき言いましたが、関西なら飲み屋さんに行くにも歩いて行けるとかね。街中に住んで生活を楽しむことを皆が重要視するようになれば一極集中は変わって行くでしょうね。これはかなり大きな要素になると思います。逆に、東京でしか享受できなかった文化的な行事は新幹線と飛行機を使えば何程のこともないんです。たとえば新潟から上野のコンサートに来る時間の方がさる都内から来るより早いという現実がある。あくまでも「さ

る”ですが。  
蓮舫●渋谷から成田へ行って成田から海外に行くよりも、羽田から関西へ行って関西から海外へ行く方が時間のロスがないともいえるんです。へたすれば渋谷から成田へ2時間かかりますからね。交通アクセスの充実も東京一極集中を崩す重要な手段ということですね。

## アジアに学べ

蓮舫●世界的にも関西の空港施設料などがかなり高いということになれば、ソウル、上海、北京など、日本から3時間の圏内に国際空港ができれば関西は競争がむずかしいでしょうね。  
高坂●長い目で見て、アジアとは競争しなくちゃならないんです。しかしアジアとは産業の競争で勝てないですよ。たとえば国内で交通費を1万円使って空港へ行ってビジネスをする会社と500円で済んでいる国の会社との競争はたいへんです。僕はアジアに学べと言っているんだけど、アジアってたくましいでしょ。いらんことにはお金をかけない。その点、日本にはムダが多い。  
蓮舫●この前、台湾に帰ってきたんですが、あそこもだんだん空港の施設がよくなって、成田

と同じ位に高くなってきたんです。ただ、あそここの交通手段はバスとタクシーしかないんですが、それがすごく安いです。日本だったら高くするでしょうね。安いから回転がいいし、しかもそれが会社の方針なんです。  
高坂●それが商売じゃないですか。僕は台北やバンコクを見ると大阪を思い出しますよ。共通しているのは商売の原点をちゃんと守っているということです。台湾というのはおもしろいように思っている人が多いけれども、商売だけは違う。商売は全部個人に任している。それが台湾の強さなんだ。  
蓮舫●しばらく前まで戒厳令が敷かれていたとは思えないほど緊張感がないんですよ。  
高坂●そこがたくましさなんです。そこがきわめて大阪的なんです。それを大阪が忘れてたらおしまいなんや。

## 笑いは国際都市の必須条件

高坂●大阪の国際化ということでは、大阪にある笑いのセンスは非常に有効な手段なんです。なぜなら、笑いというのは相手だけではなく自分をも茶化することなんだけれども、そうい





# アジアの都になろう!

—国際都市に生きる関西のセンス—

う相対的に対応する心の状態が国際的に通用するということです。たとえば、言葉が解らなければヘタな外国語をしゃべるよりも自分の言葉で笑ってしゃべるほうがずっと通じる。顔というのは人類共通なんだから。イギリスのような概して器用でない民族がどうして国際国家になったのかというと、ユーモアのセンスがあったからなんです。笑いは異文化を乗り越える一番よい方法といえる。

蓮舫●オーストラリアの人たちも非常に気さくですよ。オーストラリアの知り合いが日本とオーストラリアのタクシーは非常に堂々としていてサーバントじゃないと言っています。つまりは同じ人間として意識が高いということでしょうか。大阪でタクシーに乗ると運転手さんが乗車中に3度は笑わしてくれますからね(笑)。大阪の笑いのセンスが空港に生かされたらどのような接待ができるのか、興味深いですね。

## 関西の歴史的資産を現代によみがえらせる空港づくり

高坂●泉州は歴史的には非常な先進地域なんです。たとえば戦国時代、堺から和歌山にかけては鉄砲の生産量もすごいし、貿易量も多くなへん発達したんですよ。また熊野という古い歴史的文化もある。泉州から熊野というのは黒潮に乗って南から来たヤシの実がたどり着いた文化なんです。そのことを考えると歴史的先進地だったのは何の不思議もない。大阪の南にりっぱな過去を持つところがあるということを実感として知ることは大きいですよ。こうした意外に古いものを持つ関西一円を取り込めば、おもしろい空港になると思います。

蓮舫●結接点ができることで発見があり、また関心が深まるということがありますね。

## 雑草の発想を生かしたモノづくりを

高坂●ナンバにある南海サウスタワーは駅の上にホテルをつくるというおもしろいことやっているのだけど、実はこれはあらかじめ計画していたことで、駅舎改築の時にやろうと初めから基礎工事をしていたんですね。どういう街づくりをしたいのかという全体の構構がしっかりしたプランニングが個性的な街をつくるといえますね。

蓮舫●ヨーロッパではビルの前に人々が憩う遊びのスペースを取り入れているのをよく見ます



●阿倍野ソーホー

が、地価の違いがあるのかもしれないけれども、日本では建物をつくる時に、とにかく新しいものはエライという感じがありますよね。

高坂●建物は孤立して存在しているわけではないので、その接点の部分を考えなくちゃいかん。僕は赤ちょうちんのない街はアカンと思っているんだけど、ああいう屋台というのは日本人のつきあいの原点なんです。設計する時にそこまで考えることが大切ですよ。

蓮舫●マスコミの世界も一緒なんです。ハードの発達だけでソフトがないとみんな横並びで個性的な番組が出てこない。ハードを考える人はソフトも考えないと一体化して発達していかないですね。

高坂●空港づくりや建設産業でも、近代化ということになるとついつい発想がよゆきになってしまうが、日本が成功してきたのは赤ちょうちんというような雑草の部分との接点があったからなんです。これはすばらしいことです。海運業でも昭和に入るまで帆船を使っていたんだけど、それがよかった。帆かけ船なら儲け方を知っているからです。大阪も個人商店のパワーを含めて発達してきたんですね。これからの社会は、人間に疎外感を与えないようなモノづくり、それと外国人を暖かく迎え入れるような環境づくりが一層大事になるでしょう。だから、関空を契機に関西がアジアの国際都市として成長しようとするならば、もともと大阪が持っている狼狽性というかアジア的な発想を生かした発展のし方が大事でしょうね。関西には国際都市になる資質も展望も十分にあると思いますよ。

蓮舫●きょうは、いろいろ勉強させられるお話をありがとうございました。



●関西国際空港



●天保山大橋



●なんば

